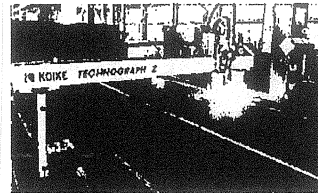


シャヤ 大型プラズマ切断機が稼働

需要期入り備え生産性向上

（岩沼）仙台シャヤリング（宮城県岩沼市、林理明社長）は大型のプラズマ切断機を増設、この5月連休明けから稼働をスタートさせた。増設したのは最新鋭の400Aプラズマ切断機（小池酸素工業、写真）で、厚物の切断を得意とするもの。MAX板厚40mmまで対応可能だ。既存の260Aプラズマ切断機はMAX板厚25mmまでで、2基を使い分けることでこの夏場以降増加してくる鉄骨需要への柔軟な対応を図る。同社の月間加工能力は平均700t規模。大型プラズマ導入で安定して月間800tの加工能力を確保することが出来る。大型プラズマは老朽化したガス溶断機を撤去した跡に設置されている。新鋭設備に切り替わることで、品質のみならず生産効率性もアップすることになる。



同社は日鉄住金物産系列の厚板シャヤ。地場の鉄骨加工会社との強いパイプを持ち、30年余りにわたって建材シャヤとして存在感を示してきた。2014年には2次加工体制の整備を進め、細かな加工対応にも柔軟性を高めていた。

今回の新設備導入により更に加工体制の充実に磨きをかける。

林社長は安定的な設備稼働を考慮し、他の既存設備更新も継続して模索していくと言う。首都圏再開発や東京五輪関連の需要本格化兆候は既に見えてきており、同地区にも当然波及効果がある。人手不足問題により案件の発注タイミングや工期がずれ込む中、中間加工業者である厚板シャヤの仕事は時期が集中化する恐れがある。同社としても繁忙期における仕事に取りこぼしの無いよう、早期に体制を整えた形だ。